



医 心

医療従事者の熱き心が  
医療を進化させる

伝 進

ここでは、医療現場で行われて  
いる取り組みを取り上げ、かわる  
人々の想いを伝えていきます。

## 未来に光をつなげ！ 医師不足解消に懸ける熱い思い ～外科手術体験セミナー受講生が続々と医学の道へ～

——メジャーリーガーに憧れて野球選手を目指すように、

尊い人の命を救う外科医の仕事や医療に対して興味を抱ききっかけを子供たちに与えられたらいい——

日本の医療現場が直面している医師不足の問題を解消するために医療現場とJ&Jが協働し始まった

「外科手術体験セミナー」。今回は、この活動にご尽力いただいている高知大学の花崎先生と、

セミナーの卒業生であり現在高知大学医学部在籍の高橋さんに外科手術体験セミナーについてお話をうかがいました。



高知大学医学部 2 年生  
高橋 彩甫子さん

高知大学医学部  
外科学講座外科 1 教授  
花崎 和弘先生

### 医師を志したきっかけは 身近な人の存在と漫画の天才外科医

花崎 セミナーを受講してくれてありがとうございます。高橋さんがこのセミナーを受講しようと思ったきっかけについて聞かせてください。

高橋 セミナーの存在は、父から教えてもらいました。当時、医学部を目指して勉強をしていたので是非受講したいと思い参加しました。医師である父の姿を見て育ったので、幼い頃から医師になりたいという思いはありましたし、「救命病棟24時」などのドラマの影響で外科医に対して強い憧れがあったので、とても充実したセミナーでした。

花崎 外科医は10年前と比べると約3割減少し、医師不足が叫ばれているので、外科を志願してくれるという言葉は心強いね。僕が外科医を志したのは、手術によって起死回生の一発が打てるから。もちろんその分、リスクも苦労も大きいし、生涯修業は続きますが、立ち足る壁を乗り越えた後の達成感や患者さんが元気になって退院される姿を見るとき喜びは何物にも代えがたいものがあります。それに手塚治虫さんの「ブラック・ジャック」の影響が強いです。きっとブラック・ジャックが皮膚科医だったら皮膚科医を目指していたと思います(笑)。

# 高知大学医学部の外科手術体験セミナーのはじまりと花崎先生の想い

僕が教授職を選んだのは、優れた外科医を一人でも多く育てたいと思ったから。また、人の命を救うことができる医師の仕事を経験する機会を子どもたちに提供することで、医師の仕事や医療に興味を抱ききっかけ作りができればいい—川井さんからの外科手術体験セミナー（以下、セミナー）の提案は、そんな僕の思いをつなぐ架け橋となりました。

現在、高知大学のセミナーは、中高生を対象に定員60名で2日間にわたり鶏肉を用いた超音波メスによる模擬手術やシミュレーターを用いた内視鏡外科手術操作、手術用縫合糸による結紮などの体験ができる5つのプログラムを提供しています。

外科医には先天的な手先の器用さが重要視されるくらいがありますが、実際はセミナーで体験するような基礎的な手技の組み合わせと、経験に基づいた判断力や練習によって大きな手術

**高橋** 私の周りには外科医になりたいという学生は多いですよ。まだ、外科医の現実を知らないからかもしれませんが（笑）。

## セミナーを通じて育まれる心と技

**花崎** セミナーで、実際に最新鋭の医療機器を使ってみてどうでした？

**高橋** TVなど二次元で見るのとは全く違いました。手術着を着て、肘まで消毒し、最新の医療機器を操作する…手術現場における緊張感を肌で感じることで、一つひとつが本当に感動の連続でした。特に、超音波メスを手にしたときは「こんなに医療技術は進歩しているんだ」という感動と同時に、「医療技術の進歩についていなくては医師としては半人前なんだ」という危機感も抱きました。また、シミュレーターを用いた内視鏡外科手術では、小さなミスで出血したり…「これが本物だったら怖い」という恐怖感も芽生えたのが正直なところ。こういった不安を払拭するために、もっと医療のことを勉強したいなと思いました。

**花崎** 高橋さんは医師としての素地が完成されていますね。外科医にとって「怖さ」を知ることは本当に大切。外科医は、体育会系で前向きで、って思われるかもしれないけれど、手術の前は、最悪の事態も想定して臨まなくてはならないので、「怖い」という感性を持ち合わせていることは非常に重要な要素だと思います。

**高橋** また、チーム内でそれぞれの役割分担を決めて模擬手術を進めていったのですが、知らない人が集まって一つの作業をする上で、コミュニケーションの大切さを実感しました。緊張がほぐれるにつれて、何をすれば相手の作業が進めやすくなるだろうと、お互いにサポートする気持ちが芽生えたように思います。

**花崎** 素晴らしい！それがこのセミナーの一つの狙いです。外科手術はスタッフ同士の協力が大切です。セミナーを通じて出会ったお友達同士、相手の違いを認めて尊重し、協調していく精神を育ててほしいですね。

一緒にセミナーを受講したお友達はどんな感想を持っていましたか？

**高橋** 医療関係の職に就きたいと思っている友人ばかりだったので、満足していたようです。実際、参加した友人は皆、医師、看護師、検査技師など医療の道に進んで行きました。

**花崎** 喜ばしいですね。最近、第1回目のセミナー受講生の約1割が高知大学医学部に入学したという実績もあるんですよ。逆に、セミナーで、もっとこうしてほしいと思うことはありますか？

**高橋** 非常に満足したセミナーだったのですが、欲をいえば、外科医は麻酔科

も可能になります。子どもたちの心は純粋で、「やりたい!」と思ったことに対する力は、大人以上にあると思います。メジャーリーガーに憧れ、野球選手を目指すように、このセミナーでの小さな成功体験を通じて、医師の仕事に魅力を感じてもらえたら一番いいのですが、それ以上に、どんな仕事も、地道な練習と成功体験を繰り返して一步一步前進していくんだという仕事の厳しさと面白さを肌で感じて、この先の人生に活かしてもらえたらいいなと思っています。



や産婦人科など多くの診療科との連携が大切だと思うので、他の診療科の体験もできたらいいなと思いました。

**花崎** 最近、高橋さんが望むようなプログラムに近づいています。産婦人科や麻酔科の先生方の協力を得た新しいプログラムや乳がん専門医による乳がん生検装置の操作体験なども取り入れています。今後はもっと多くの診療科の先生方を巻き込んで、プログラムを拡充し、高知から新たなトレンドを発信していきたいですね。

## 優しさに秀でた人それが優秀な医師

**花崎** 最後に、高橋さんはどんな医師になりたいのか教えてください。

**高橋** セミナーを通じて、医療機器や治療など医療の進歩を目の当たりにしたことで、医師になったからといって勉強をやめるのではなく、患者さんのために新しい技術も使いこなせるような向上心を常にもってたいと思います。また、1年生の前期に病院実習があって、医師や看護師の皆さんの後について病棟を回りました。そこで、医師と看護師、そして患者さんのふれあいを見て、胸が熱くなりました。患者さんと正面から向き合っ、心で対話していくことがとても大切だと思うので、技術的な面と精神的な面を兼ね備えた医師になりたいです。

**花崎** 完璧ですね！ここ10年間で医療は過去100年分の進歩を遂げたとされています。腹腔鏡下外科手術の発展もその一つです。医療の進歩から取り残されないためには、新技術に対しても、ためらうことなく自分の中で咀嚼し、チャレンジしていく気持ちが必要です。外科医として大成していくには、「革新性」と「細心さ」が必要になるでしょう。また、今後より一層パラメディカルの方々との協働が増えると思いますので、そうした方々の仕事を理解することも大切です。

医師には、診療技術、勉強、優しさの三要素が必要だと思います。僕は学生に、優秀になりたかったら、「優しさに秀でた人」になりなさいと話しています。優しさと日々の勉強の土台があって、はじめて診療になるとしています。高橋さんはすでに医師に必要な要素を持ち合わせているようですので、非常にたのしいです。

**高橋** ありがとうございます。今日お話しさせていただいて、花崎先生は私が思っていることをうまく言葉で表現してくださるので、本当に気持ちが良かったです。外科医になりたいという思いがより一層強くなりました。

**花崎** こちらこそありがとうございました。外科学講座で待っています（笑）。

